

■高野房太郎 社会運動家。日本初の近代的労働組合を組織し、生活協同組合も先駆するも、なぜかすぐに離脱。

たかのふさたろう

戊辰戦争終・1869＝ 長崎銀屋町で、代々和服仕立て職人の高野仙吉の長男に生まれる。母ますの実家は米屋。2つ上に姉。

廃藩置県・・1871＝ 2歳：弟岩三郎(日本の統計学創始者)が誕生。

明治6年政変 1873＝ 4歳：この頃、長崎磨屋小学校に入学。

西南戦争・・1877＝ 8歳：父が東京神田で旅館兼回漕業{長崎屋}を始めるため、一家で上京。千代田尋常小学校に編入、大久保暗殺・1878＝ 9歳：江東小学校高等科に進学、沖縄県編入・1879＝10歳：{長崎屋}が東京一の繁盛するなか、父が死去し、家督を相続。

明治14年政変 1881＝12歳：明治期最大の松枝町大火で{長崎屋}が全焼、日本橋区に移転して旅館を再開するも没落、卒業すると、伯父が横浜で経営する汽船問屋兼旅館{糸屋}の住込み店員になり、横浜商法学校速成科1期生となる。

秩父事件・・1884＝15歳：伊藤痴遊らと{横浜講学会}を結成し、勉強会。

内閣発足・・1885＝16歳：この年、姉が長崎で蜜柑栽培普及に努める井山憲太郎と結婚。

帝国大学始・1886＝17歳：{横浜講学会}が東京専門学校同窓会{同攻会}横浜支部となるに当り発起人。{長崎屋}廃業。伯父も死去したため、本郷に移住、母が学生下宿で家計を支えるなか、_渡米、オークランドで働きながら、英語を学ぶ。

国民之友始・1887＝18歳：一時帰国。_旧知の高田早苗が主筆の{読売新聞}通信員となり、再渡米後、10本ほど寄稿。

初の対等条約 1888＝19歳：友人と日本雑貨店を開業するもすぐに破綻し、夜逃げ同然で製材所に勤め、_労働運動に目覚める。

帝国憲法発布 1889＝20歳：高野家の家計が逼迫する間、好景気のシアトルを経て開発ブームのタコマに移住。

帝国議会始・1890＝21歳：*{読売新聞}に日本人初となる労働組合論「北米合衆国の労役社会の有様を叙す」を寄稿。{国民の友}掲載の無署名論文「労働者の声」も執筆したと思われる。サンフランシスコ商業学校別科で簿記・速記術等学ぶ。

大津事件・・1891＝22歳：高野家の家計さらに逼迫し借金。_ {読売新聞}社友となる。サンフランシスコ在住日本人と{職工義友会}創立し、アメリカ労働総同盟(AFL)や労働騎士団と接触したり、ガントン「富と進歩」ほか経済学書を読み漁る。日本で製材工場起業すべく、弟岩三郎に基礎データ収集依頼。タコマに戻り、収入も増える。

大本教・・・1892＝23歳：弟岩三郎が帝大法科に入学して仕送り責任が軽減されたのを機に、一時帰国し相談。

郡司千島探検 1893＝24歳：アメリカ中・東部を視察し、シカゴ万博も日本商品販売所で働きながら見学。_AFL会長に初めて手紙。

日清戦争始・1894＝25歳：_ニューヨークに移住し、AFL会長依頼で「Labor Movement of Japan」寄稿。砲艦マズに乗り組み、長崎に寄航した際、姉夫妻と面会后、中国・朝鮮各地を回り、

白馬会・・・1896＝27歳：*横浜で脱艦し、帰国。日刊英字新聞{アドバタイザ}翻訳記者を経て、労働組合運動を始める。

八幡製鉄始・1897＝28歳：「実用英和商業会話」を編集出版。社会政策学会会員となり、知合った佐久間貞一の依頼で、冊子「職工諸君に寄す」を配布して講演。{職工義友会}主催の「我国最初の労働問題演説会」に聴衆詰掛け、警察の監視を受けるようになる。{労働組合期成会発起会}開催し、その呼びかけで、{鉄工組合}が発足。

子規句歌革新 1898＝29歳：結婚。_日本橋署に召喚され、{期成会大運動会}中止を勧告される。{期成会}幹事長となり、東北遊説。「工場法案」反対運動に専心後、{横浜鉄工共営合資会社(生協)}開業し専従。

Bushidou・・1899＝30歳：京橋区に生協{共営社}を設立し、一家で住む。長女が誕生。_ {期成会}が社会主義を主張するのに警告。

ビア/国産化・1900＝31歳：*{鉄工組合}財政難で常任委員給与を返上。突然労働運動から離脱して清国へ渡り、

田中正造直訴 1901＝32歳：青島で友人と貿易業に従事するが、

教科書疑獄・1902＝33歳：辞め、

日比谷公園・1903＝34歳：次女誕生後、

日露戦争始・1904＝35歳：青島の独逸病院で、肝臓腫瘍のため、_没した。